

いじめの予兆をとらえる視点 —大学生から自由記述により収集した項目の分類—

大谷 哲弘*・山本 奨*

(2018年2月14日受付)

(2018年2月14日受理)

Tetsuhiro OHTANI, Susumu YAMAMOTO

The Viewpoint for Predicting Bullying ; Classifying opened responses of university students

要 約

本研究は、いじめ発見に資する観点に裏づけされた具体的ないじめの予兆を収集することを目的に行われた。大学生62人に対して、自由記述により、教師には見えにくい、わかりにくいいじめ発見のポイントについて回答を求めた。その結果、325項目が収集された。重複する項目を整理したところ128項目になった。内容分析を行い、いじめの態様として「能動的攻撃」「使役」「忌避」「受動的攻撃」「ストレス反応や失敗している対処およびその結果」にまとめることができた。次にこれらの態様の軸に発見の機会となる場面や学校生活上の注目すべき要点の軸を加えて2軸でとらえ分類した。収集した項目は、従来の視点では見られなかった具体的な項目が収集できた。

問題と目的

不登校や暴力行為と並び、いじめは我が国の学校教育における重要課題の一つである。文部科学省(2017)によると、いじめの発見のきっかけは、「アンケート調査など学校の取組により発見」51.6%(小学校55.3%, 中学校39.0%, 高等学校54.5%, 特別支援学校41.0%)で半数を超え、「本人からの訴え」16.1%(小学校16.5%, 中学校22.8%, 高等学校21.0%, 特別支援学校19.70%)「学級担任が発見」11.6%(小学校12.2%, 中学校10.6%, 高等学校6.4%, 特別支援学校17.5%),「当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え」10.6%(小

学校9.9%, 中学校13.7%, 高等学校6.9%, 特別支援学校8.8%)の順に多かった。この結果を踏まえると、いじめは外形的な基準が決まっているものではなく行為をされた側の内的な苦痛によるため、その発見の主要な方法は、アンケート調査や本人、保護者などの関係者との会話や面談となると言えよう。しかし、いじめは隠蔽を伴うことも多いため、教師の観察による発見も重要であり、この観察が本人や保護者等との面談に生かされると考える。

この観察による発見に資するために、これまでいじめの態様について、研究者等によってさまざまな分類が試みられている(e.g.Sullivan, 2000;

* 岩手大学大学院教育学研究科

Crick & Grotpeter, 1995; 文部科学省, 2017)。例えば, Sullivan (2000) は, 叩く, 蹴るなどの「物理的ないじめ」, 悪口などの「言葉によるいじめ」, 悪意が伝わるような態度などの「言葉によらない直接的ないじめ」, 対人関係を操る, 友人関係を壊すなどの「言葉によらない間接的ないじめ」に分類した。また, Crick & Grotpeter (1995) は, 関係性攻撃を「仲間関係性にダメージを与える方法で, 仲間に危害を加えること」と定義し, ゲームから誰かを排除すること, そう言っていないのに友だちが一緒にいたくないと被害者に言うことなどの例を示した。これらのようにいじめの態様は, 物理的, 直接的なものから, 間接的で関係的なものに分類されている。また, 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター (2013) は, 「暴力を伴ういじめ」と「暴力を伴わないいじめ」を区別し, その発見も対応も異なることを指摘している。さらに, Sullivan (2000) が示すような大きな分類ではなく, 具体的な例による分類も見られる。例えば, 文部科学省 (2017) の調査では「冷やかしかからかい, 悪口や脅し, 文句, 嫌なことを言われる」「仲間はずれ, 集団による無視をされる」「軽くぶつかられたり, 遊ぶふりをして叩かれたり, 蹴られたりする」「ひどくぶつかられたり, 叩かれたり, 蹴られたりする」「金品をたかられる」「金品を隠されたり, 盗まれたり, 壊されたり, 捨てられたりする」「嫌なことや恥ずかしいこと, 危険なことをされたり, させられたりする」「パソコンや携帯電話等で, ひぼう・中傷や嫌なことをされる」というように具体的な例と程度を同時に示している。

Sullivan (2000) の「物理的ないじめ」, 「言葉によるいじめ」, 「言葉によらない直接的ないじめ」や, 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター (2013) の「暴力を伴ういじめ」は観察により発見しやすいものと言える。一方で, 加害者は教師に露骨な態度や行動をとり, わかりやすい痕跡を残すわけではない。例えば, 松浦 (2013) は, 加害者が遊びやケンカを装い, 巧みにいじめの事実を覆い隠すことを指摘している。このこと

を踏まえると, いじめを発見しようとするとき, 漠然と「いじめはないかな」という目で児童生徒や教室を見ても見えにくいことが予想される。したがって, いじめを早期に発見するために, 教師が児童生徒や教室等を見るときにいじめの予兆の具体例を知っていることがその一助となるであろう。

また, 学校場面や学校生活上の注目する要点で整理されているものもある (例えば, 福岡県教育委員会, 2008; 東京都教育委員会, 2016)。福岡県教育委員会 (2008) は, 学校場面 (「登校から朝の会 (例: 朝の健康観察の返事に元気がない)」「教科等の時間 (例: グループにするときに, 机を離されたり避けられたりする)」「休み時間 (例: 遊び仲間が変わった)」「昼食時間 (例: 給食のおかずの意図的な配り忘れや不平等な配膳をされる)」「清掃時間 (例: 清掃時間に一人だけ離れて掃除をしている)」「帰りの会から下校 (例: 帰りの会終了後, 用事がないのに下校しようとしぬ)」「部活動やクラブ (例: 急に部活動をやめたいとかクラブを変えたいと言いつつ)」) と「学校生活全般 (例: 本意でない係や委員にむりやり選出される, 衣服の汚れや擦り傷等が見られる)」で整理している。また, 東京都教育委員会 (2016) は, 学校生活上の注目する要点 (「表情・態度 (例: 視線をそらし合わそうとしない, わざとらしくはしゃいでいる)」「身体・服装 (例: けがの原因を曖昧にする, ボタンが取れていたりポケットが破けたりしている)」「持ち物・金銭 (例: 机や椅子が傷つけられたり落書きされていたりする, 必要以上のお金を持っている)」「言葉・行動 (例: 教室にいつも遅れて入ってくる, いつも人の嫌がる仕事をしている)」「遊び・友人関係 (例: 付き合い友達が急に変わったり教師が友達のことを聞くと嫌がる)」「教師との関係 (例: 教師と目線を合わせなくなる)」) で整理している。学校場面による観点と学校生活上見られる観点による整理は, どちらもいじめを早期に発見するに資する観点であるため重要である。しかし, どちらか一つの整理ではなく, その両方を含む整理が必要であると

考える。また、教師は、いじめに関する研修会において「小さなサインを見逃さない」と指導されることが多い。そのためには「笑われたり冷やかされたりする」というような教師であれば明らかに指導の対象となるような言動ではなく、教師には見えにくい、わかりにくいいじめの予兆にはどんなものがあるのかを知らなければ、努力の糸口さえ見つからないだろう。

以上のことから、本研究では、いじめ発見に資する観点に裏づけされた具体的ないじめの予兆を収集することを目的とする。なお、収集した項目は、既にいじめと判断されるものが含まれる可能性があると考えるが、ここではいじめ発見のための材料を集めることを目的とするため「予兆」と表現した。

方法

調査時期：2014年10月

調査対象：大学生62人。大学生を対象としたのは、小・中・高等学校の校種を経験しており、いじめの予兆についての蓄積があると考えたからである。

調査手続き：質問紙の配布、回収、および教示は第2著者が担当する授業内で行った。回答は無記名とした。なお、調査対象者に対しては、調査は、大学の成績と関係ないこと、倫理的配慮（回答の中止や拒否の権利について）を口頭で説明した。また、結果は授業内で報告することも伝えた。62人に配布し、提出のあった62人（有効回答率100%）を分析対象とした。

調査材料：質問紙は、自由記述により、いじめ発見のポイントについて回答を求めた。質問項目の設定にあたり、学校臨床心理学を専門とする大学教員2人で協議をした。質問項目は次の通りである。

1, 例えば、あなたが小学生・中学生・高校生の頃、「いじめ」は、教師の分からないように、どのように行われていましたか？

2, また、いじめられている被害者には、どのような様子が見られましたか？

結果

自由記述による回答を整理した結果、327項目が収集された。重複する項目を整理したところ130項目になった。自由記述のデータは、学校臨床心理学を専門とする大学教員2人で内容分析を行った。まず、観察の対象は加害者および被害者であることから、児童生徒の何を観察するのかの要点について、いじめの態様という視点で整理した。その結果、叩く、蹴る、言葉によるからかいなどの攻撃を表す「能動的攻撃」(59項目)、荷物を持たせている、嫌なこと、恥ずかしいことをさせるなどの何らかの行動を強いる「使役」(35項目)、隣の席の子どもが机を離している、周囲が距離を取るなどの対象をあえて避けようとする（離れようとする）行動を表す「忌避」(22項目)、あいさつや発表しても反応しない、しらけた雰囲気を出すなどのあえて対象に働きかけることのない攻撃を表す「受動的攻撃」(12項目)、ストレス反応やそのストレス反応のため選択できる対処行動が乏しかったり、適切に選択できなかったりすることを表す「ストレス反応や失敗している対処およびその結果」(56項目)にまとめることができた。次にこれらの態様ごとに発見の機会となる場面をとらえることとした。その結果、場面については、学校生活における「登校・朝の学級活動（例：特定の子どもを追い抜くとき少し離れて歩いたり早足になったりする、始業時刻ぎりぎりの登校、時差登校などが増える）」(11項目)、「授業時間（例：決められた座席と違う場所に座っている、隣が机を2～3cm離している）」(47項目)、「給食（例：早食い競争をしている、食べ物にいたずらする、多く盛りつける）」(16項目)、「休み時間（例：用事がないのに保健室や職員室の周りをうろうろしている）」(18項目)、「帰りの学級活動・放課後（例：他の子どもが帰宅する前に一人

Table 1 いじめの予兆をとらえる学校場面ごとの観点

学校場面	態様	能動的攻撃	使役
1 活登校、 朝の学級		<ul style="list-style-type: none"> 通学路を含め、学校の内外に特定の子どもの名前が書いてある。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の子どもの鞆を持っている。 宿題を見せている。
2 授業時間		<ul style="list-style-type: none"> その子どもを誉めると嘲笑が起こる。 クスクスと笑い声が聞こえる。 特定の子どもが発言すると、ふざけた反応や冷やかしの声がかかる。 授業中、誤答に対して皮肉や笑い声が繰り返して起こる。 正しい答えをすると、冷やかしやどよめきがあったりする。 特定の子どもが発言するとまねをする。 特定の子どもが発言すると、シーとやる。 教師が板書するとざわつく。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の子どもが、授業と全く関係のないことを発言している。 決められた座席と違う場所に座っている。 他の子どもから、発言を強要される。 他の子どもから、突然個人名が出される。 係決めの時に、仕事の多い役職に指名される。
	物がなくなる	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時、机や机の周りに学用品などが散らかっている。 授業開始前に学用品、教科書、体育着などの紛失がある。 授業道具などの忘れ物が多くなる。 配布したプリントをしばしばなくしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で使用する物を必要以上に持ってきて貸している。 授業で使用する物を自分は使わず貸している。
	体育の時間	<ul style="list-style-type: none"> 激しいプレーによる特定の子どもへの接触行為が目立つ。 球技の際に、特定の子どもが失敗すると笑う。 パスが集中する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の子どもが片づけをしている。 重い物、たくさんの物の準備、片付けを一人でしている。 自分の体操着を同じくクラスの忘れた子どもに貸している。
3 給食		<ul style="list-style-type: none"> 食べ物にいたずらする。 弁当の中身をいたずらする。 多く盛りつける、少なく盛りつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の子どもだけが片付けをしている。 仲間の嫌がる作業を一人でしている。 自分の座席を他の子どもに譲っている。 特定の子どもがいつも飲食物を買いにしている。 早食い競争をしている。
4 休み時間		<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中などでいつも技をかける側になっている。 遊びの中で笑い者になったり、からかったりする。 グループの中で、特定の子どもに絡むことが多い。 トイレが騒がしい。 教師の視線を追う。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で、いつもオニ役など、嫌な役をやっている。 いつも使った物（ボールなど）を片付けている。 いつも長縄を回す役をしている。
5 後活帰りの 放學課級		<ul style="list-style-type: none"> 特定の子どもを帰りの会で追求している。 教師が部活動に行くと、不自然に静かになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の子どもが、下校時に、他の子どもの荷物を持っている。 特定の子どもの自転車を他の子どもが乗っている。 何か起こると、いつも特定の子どものせいにされる。
6 清掃		<ul style="list-style-type: none"> 特定の子どもの目の前にゴミを捨てている。 特定の子どもをほうきで掃くような行為をする。 特定の子どもを反省会で責めている。 	<ul style="list-style-type: none"> いつも雑巾がけをしている。 後片付けを一人でしている。 教師が不在時に見張りをさせられている。
7 部活活動・ク		<ul style="list-style-type: none"> 練習中に、特定の子どもをたびたび批判する。 特定の子どもへパスを集中する。 激しいプレーによる特定の子どもへの接触行為が目立つ。 特定の子どもが失敗すると笑う。 	<ul style="list-style-type: none"> 後片付けを一人でしている。 一人だけ別メニューをしている。

受動的攻撃	忌避	反応・失敗している対処・その結果
<ul style="list-style-type: none"> ・特定の子どもがあいさつしても、周囲が反応をしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちからのあいさつや声かけをしない。 ・特定の子どもを追い抜くとき、少し離れて歩いたり、早足になったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理由がはっきりしない早い登校が目立つ。 ・始業時刻ぎりぎりの登校、時差登校などが増える。 ・友だちと登校していても自分からは話さない。 ・登校後、特別教室や非常口など目立たないところにいることが多い。 ・欠席・遅刻・早退の理由を明確に言わない。
<ul style="list-style-type: none"> ・特定の子どもが発表するとしらける。 ・特定の子どもが発表すると無視がある。 ・手紙を回している。 ・特定の子どもが発言すると、誰も反応しない。 ・よい発言や行動をしたのに周囲は賞賛や評価をしない。 ・グループ活動が成立しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣が机を2～3cm離している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物が汚い。 ・プリントに消しゴムのあとが残っている。 ・授業中、集中していない。 ・作業が継続しない。 ・視線が不自然に、合ったり、そらしたりする。 ・課題を出さないようになる。 ・一人で遅れて教室に入ってくることが多い。 ・保健室への出入りが増え、始業のベルが鳴るまで教室に戻ろうとしない。 ・教員が教室に入室後に、遅れて入室する。(教師がいるときに入室する)
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時、机上や机の周りに学用品などが散乱している。 ・授業道具などの忘れ物が多くなった。 ・配布したプリントをしばしばなくしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・特定の子どもにパスを回さない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体操服でなく、参加している。 ・更衣室でないとところで着替えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・特定の子どもに食べ物を盛りつけない。 ・特定の子どもに配られないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の子どもがさわった食器をさわらたがらない。 ・特定の子どもそばに並ばない。 ・グループの子どもが机を2～3cm離して座っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食、弁当を一人で食べていることが多い。 ・トイレや非常階段などで一人きりで食べている。 ・無言で食べるようになった。
<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの会話がないう。 ・トイレに名前や落書きがある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとふざけあっているが口数が少ない。 ・休み時間前にはなかった衣服の汚れや破れなどがみられる。 ・他のクラスで過ごしている。 ・下の学年との付き合いが急に増える。 ・階段の上り下りを繰り返すなど、一人で時間をつぶしている。 ・休み時間は一人でトイレなどに閉じこもっている。 ・トイレ、物陰など、目の届きにくい場所からよく出てくる。 ・用事がないのに保健室や職員室の周りをうろうろしている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・他の子どもが帰宅する前に一人急いで帰宅する。 ・他の子どもが帰るまで帰宅したがる。
<ul style="list-style-type: none"> ・特定の子どもに何をすればいいか教えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机が運ばれないで残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服が汚れたり、ぬれたりしている。 ・清掃後の授業に遅刻する。
<ul style="list-style-type: none"> ・特定の子どもにパスを回さない。 ・特定の子どもに日程の変更を伝えない。 ・ペアで練習の時、特定の子どもをいつも一人にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の子どもがさわった道具を他の子がさわろうとしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩中一人であることが多い。 ・理由がはっきりしない怪我、あざ、汚れがある。 ・部活動の欠席が増え、理由がはっきりしない。 ・急に退部を言い出した。

Table 2 いじめの予兆をとらえる学校生活上の注目すべき要点

態様 注目点	能動的攻撃	使役
1 周囲との 関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の子どものマネをしている。 ・ 特定の子どもの呼び名が変わる。 ・ 会話の中で暴言がある。 ・ 学級写真等の顔にいたずらしている。 ・ 「遊んでいるだけですよ」と言う言葉が返ってくる。 ・ すれ違いざまに、避難したり、舌打ちしたり、叩いたりする。 ・ 肩を組む関係に見えないのに、特定の子どもの肩を組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふざけた雰囲気の中で、班長や学級委員に選ばれる。 ・ 学級内で問題が生じると、いつも特定の子どもの名前がすぐあがる。
2 様子 身体・ 服装・		<ul style="list-style-type: none"> ・ 髪型が変わる。
3 持ち物・ 金銭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持ち物（靴、上履き、体操着、鞆、傘等）を紛失する。 ・ 靴箱の上履きやスリッパが移動されている。 ・ 靴箱がいたずらされる。 ・ 特定の子どもの関わる掲示物または作品が破損している。 ・ 持ち物が汚れている。 ・ 持ち物の目立たないところが壊されている。 ・ 机の中にゴミがある。 ・ 机に落書きがある。 ・ 教科書（ノート、連絡帳等）に本人以外の筆跡がある。 ・ ペンの欠片等壊された持ち物の一部が教室に落ちている。 ・ 自転車がパンクしている。 ・ 納入金等を急に滞納しはじめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金銭の貸借のトラブルがある。 ・ 必要以上のお金を持っている。 ・ 教室内での盗難等の疑いが掛けられる。
4 言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょっと聞いただけでは意味がわからない隠語を多用している。 ・ 「キモイ」等の言葉が聞こえてくる。 ・ 強い口調で、呼び捨てしたり、不快なあだ名（身体的な特徴、〇〇菌、蔑称となる動物名）で呼んだりする。 ・ 黒板や机等に、あだ名や「〇〇死ね」等の落書きがある。 	
5 教師との 関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師と視線が合わない。 ・ 教師が来ると不自然に静かになる。 	
6 ネット 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顔写真、個人情報、誹謗、中傷が書き込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意図しない写真が勝手にアップされている。

受動的攻撃	忌避	反応・失敗している対処・その結果
<ul style="list-style-type: none"> ・グループ分けで、取り残される。 ・教室内でアイコンタクトをしている。 ・すれ違いざまに、距離をとる。 ・学級委員等に立候補した時に、学級全体で投票しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合写真で、特定の子どもの両脇に空間ができる。 ・席替えや班決めで、特定の子どもの隣や近くの席を嫌がられる。 ・特定の子どもの席に誰も座らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交友関係が急に変化した。 ・移動教室の時に、一緒に行く友人が変わる。 ・下の学年との付き合いが急に増える。
		<ul style="list-style-type: none"> ・笑っている時の顔が引きつっている。 ・以前より元気がなくなる。 ・うつむいていることが多くなる。 ・感情が押さえられなくなる。 ・以前より筆圧が弱くなる。 ・以前より文字が雑になる。
<ul style="list-style-type: none"> ・配布したプリント等が特定の子どもにわたらない。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・「クラスをかわりたい」「転校したい」「部活動を辞めたい」等話す。 ・「自分はダメだ」「死にたい」等話すことがある。 ・他の子どものいじめ被害を話題にするようになる。
<ul style="list-style-type: none"> ・特定の子どもの悪い所を告げ口する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教師が友だちのことを聞くと嫌がる。 ・いじめられているかどうか確認すると、強く否定する。 ・教師の質問に対して、あいまいな答えをする、矛盾がある。 ・いじめを受けているか確認すると、「大丈夫」と明るく振る舞う。 ・教師と視線が合わない。 ・教師に妙になつてくる。
<ul style="list-style-type: none"> ・グループから外される。 		

急いで帰宅する。または、他の子どもが帰るまで帰宅したがない)」(7項目)、「清掃(例:特定の子どもに何をすればいいか教えない、机が運ばれないで残っている)」(10項目)、「部活動・クラブ活動(例:ペアで練習の時特定の子どもをいつも一人にする、練習中に、特定の子どもをたびたび批判する)」(14項目)、に分類できた(Table 1)。最後に、学校場面に依存しない共通点として、学校生活上の注目すべき要点について、「周囲との関係(例:「遊んでいるだけですよ」と言う言葉が返ってくる、肩を組む関係に見えないのに特定の子どもの肩を組んでいる)」(18項目)、「身体・服装・様子(例:髪型が変わる、以前より筆圧が弱くなる)」(7項目)、「持ち物・金銭(例:配布したプリントなどが特定の子どもにわたらない、必要以上のお金を持っている)」(17項目)、「言葉(例:ちょっと聞いただけでは意味がわからない隠語を多用している、他の子どものいじめ被害を話題にするようになる)」(7項目)、「教師との関係(例:いじめを受けているか確認すると「大丈夫」と明るく振る舞う、特定の子どもの悪い所を告げ口する)」(9項目)、「SNS(例:意図しない写真が勝手にアップされている)」(3項目)に分類できた(Table 2)。

その結果、本研究は被害者や加害者を特定するために行うためではなく、学校内で起きている「どこかおかしい」という小さな変化に敏感になるために、その具体的な機微を収集するために行ったものである。つまり、いじめの予兆に気付く感度を上げるために項目を収集したものである。多忙な教師が常にいじめだけに注目しながら日常の指導と援助を行うことは現実的ではないため、いじめを発見するための学校生活や学校場面ごとの具体的な予兆を知っていると見つけやすくなると考える。収集した結果、従来の視点(例えば、福岡県教育委員会, 2008; 東京都教育委員会, 2016)では見られなかった具体的な項目(例えば、「隣が机を2~3cm離している」「遊んでいるだけですよ」と言う言葉が返ってくる)「特定の子どもが発言すると、シーとやる」「用事がないのに保健

室や職員室の周りをうろうろしている」など)が収集できた。また、「髪型が変わる」は、一見すると誰にでもみられる可能性がある行為であるが、調査の質問を踏まえると、髪の毛を切られて不自然になってしまった髪型を隠すために行われたものと考えられる。これらのように教師の読み取りが必要となる項目も収集され、教師には見えにくい、わかりにくい項目を収集できたと言えよう。

考 察

本研究の目的は、いじめ発見に資する観点に裏づけされた具体的ないじめの予兆を収集することであった。本研究は、被害者や加害者を特定するために行うためではなく、学校内で起きている「どこかおかしい」という小さな変化に敏感になるために、その具体的な機微を収集するために行ったものである。つまり、いじめの予兆に気付く感度を上げるために項目を収集したものである。多忙な教師が常にいじめだけに注目しながら日常の指導と援助を行うことは現実的ではないため、いじめを発見するための学校生活や学校場面ごとの具体的な予兆を知っていると見つけやすくなると考える。収集した結果、従来の視点(例えば、福岡県教育委員会, 2008; 東京都教育委員会, 2016)では見られなかった具体的な項目(例えば、「隣が机を2~3cm離している」「遊んでいるだけですよ」と言う言葉が返ってくる)「特定の子どもが発言すると、シーとやる」「用事がないのに保健室や職員室の周りをうろうろしている」など)が収集できた。また、「髪型が変わる」は、一見すると誰にでもみられる可能性がある行為であるが、調査の質問を踏まえると、髪の毛を切られて不自然になってしまった髪型を隠すために行われたものと考えられる。これらのように教師の読み取りが必要となる項目も収集され、教師には見えにくい、わかりにくい項目を収集できたと言えよう。

また、分類の可能性を検討した。いじめ発見に資する観点として、いじめの態様を「能動的攻撃」「使役」「忌避」「受動的攻撃」「ストレス反応や失敗している対処およびその結果」の5つに整理した。1つ目の「能動的攻撃」はSullivan (2000)の「物理的ないじめ」, 「言葉によるいじめ」, 「言葉によらない直接的ないじめ」に当たると考えられた。いじめの本質は、人権の侵害や尊厳を脅かすことである。これまでの先行研究の分類と重なるところが多く、能動的な攻撃がいじめの代表的な種類だと理解されていることがうかがえた。2つ目の「使役」は、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター (2013) の「暴力を伴わないいじめ」の一つであり、文部科学省 (2017) の「嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする」に当たると考えられた。いじめの場面では、命令があるときもそれが明確でなく、習慣や力関係の中で暗黙のうちに強制されることも考えられる。3つ目の対象をあえて避けようとする「忌避」や4つ目の居場所を奪う「受動的攻撃」は、Sullivan (2000) やCrick & Grotpeter (1995)の分類に見られないものであった。これは、本研究が、教師が気づきにくいいじめの予兆を調査したため、先行研究で指摘されているようなわかりやすいいじめの態様と重ならなかったためと考えられる。いずれも人権侵害の観点からは、働きかけのある能動的な攻撃や使役と同様に、苦痛の度合いが高いことが推察される。5つ目の「ストレス反応や失敗している対処およびその結果」は、福岡県教育委員会 (2008) や東京都教育委員会 (2016) で整理されている項目を、ストレスという視点を使って整理したものと考えられる。被害者を見つけ出す観点は、苦痛の把握に依存する側面がある。その苦痛は当事者には処理が難しい結果としての心的反応のため、ストレス反応とも言える。また、ストレス反応を呈する児童生徒は、選択できる対処行動が乏しかったり、適切に選択できなかつたりすることが多いため、教師に対して攻撃的になったり、社会的に許されない行動をとったりすることもある。

以上のように教師の「いつもとなんか違うな」という感覚とともに、場面や反応様式などの注目すべき視点や要点をもち、具体的な行為を知っておくことが大切であろう。

本研究では、大学生に対して自由記述で回答を求めた。今後さらにいじめ予兆の機微を収集するために、インタビュー等を用いて、思い出しやすくさせたりするなどの収集方法の工夫を検討したい。また、児童生徒が隠そうとするいじめを発見するための学校場面における観察の工夫についても検討したい。さらに同様の項目が複数出てくることから、分類の余地が残されている状態であると考え

〈引用文献〉

- Click, N, R., & Grotpeter, J, K. (1995). Relational Aggression, gender, and social-psychological adjustment. *Child Development*, 66, 710-722.
- 福岡県教育委員会 (2008). いじめ早期発見チェックリスト
 〈http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/31018_17366038_misc.pdf〉 (平成30年2月13日)
- 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター (2013). いじめについて、正しく知り、正しく考え、正しく行動する。
- 松浦善満 (2013). 生徒の対人関係性といじめ問題 教育と医学の会編 教育と医学2013年11月号 慶應義塾大学出版会, 12-19.
- 文部科学省 (2017). 平成28年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」(速報値) について 平成29年10月26日
 〈http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/10/_icsFiles/afieldfile/2017/10/26/1397646_001.pdf〉 (平成30年2月12日)
- Sullivan, k. (2000). *The Anti-bullying Handbook*. Oxford: Oxford University Press.
- 東京都教育委員会 (2016). いじめ発見のチェッ

クシート

〈http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/2016/pr161124b/anti-bullying_measure_2_06.pdf〉（平成30年2月13日）